

第 1 号議案 平成 29 年度事業報告 ~~(案)~~

【公益目的事業】

安部榮四郎記念館では、事業を記念館展示室で行う展示活動・手すき和紙伝習所で行う紙すき体験および館内館外で行うイベントを含む和紙普及活動（ワークショップ）、・研究活動・和紙などの販売—ミュージアムショップを主な事業としている。平成 29 年度においては、次のように実施した。

1. 展示活動について

① 常設展示

国の重要無形文化財 雁皮紙保持者の故安部榮四郎が和紙を学ぶ人のためにと、収集した多くの紙資料より、古文書・典籍・紙製品等を展示し、現代に至るまでの紙の歴史を分かりやすく、和紙の周知に努めた。

展示期間：平成 29 年 4 月～平成 29 年 8 月 28 日

② 1 階 2 階展示室リニューアルに伴う企画展 「安部榮四郎の軌跡と民芸作家作品展」

展示室の老朽化によるクロス張替えに伴って、全室の展示替えをした。

昭和初期から民芸運動を縁に松江を訪れていた柳宗悦、バーナード・リーチ、河井寛次郎、棟方志功等の作品を展示した。

展示の説明や、展示品のキャプションを海外の方にも分かりやすく英語・フランス語で表記し、展示の説明文に関しては冊子を製作し配布した。

展示期間：平成 29 年 9 月 13 日～平成 31 年 3 月（展示室のクロスの張替え・トイレ工事・展示の入れ替えの為、8 月 29 日から 9 月 12 日まで臨時休館）

2. 和紙普及活動

① 手すき和紙伝習所において

・紙すき体験の受入れ

予約制で一人から学校団体まで受入れ、人数と時間によって紙すき内容を変え対応した。八雲幼稚園・保育園小学校・中学校、及び松江市内保育園幼稚園等が卒業証書を渡した。

② 「紙樂塾」（しがくじゅく）の開催

一般参加の和紙工芸体験（あかり・うちわ・たこ作りなど）ロビーにおける体験工房照明器具（あかり）作り、たこ作り、型染め体験、うちわ作り、紙すき体験など実施。

また、八雲塾「紙ってどうして出来るの？三極皮はぎから紙すきまで」（第 28 回）を 2 月 4 日に開催、年に 1 度の冬の風物詩。紙の原木三極を古式の方法で蒸し、皮をはぎ、紙料を作り、紙すきまでの工程を体験した。八雲公民館・一般より 40 名参加

③ 松江地域おこし協力隊による和紙商品開発とワークショップの開催（不定期）

平成 29 年度においては、「和紙を未来に繋ぐ—手漉き和紙展Ⅰ・Ⅱ」（於・松江テルサ 1 階）で切り絵・てまり・和紙ブローチ・だるまの製作のワークショップを開催、第 28 回三極皮剥ぎから紙漉きまででは、漉いた和紙でキャンディーライトのワークショップを開催した。

出雲民芸紙を使った新たな商品の発案や、手漉き和紙伝習所において和紙の製作から商品までの開発も手掛ける。

3. 調査研究活動

- 重要文化財「菅田庵及び向月亭 附御風呂屋」の襖紙の調査の経緯について

松江市菅田町にある国の重要文化財「菅田庵及び向月亭 附御風呂屋」の修復に関して、請負業者・公益財団法人 文化財建造物保存技術協会より依頼があり、向月亭の襖紙の調査を依頼された。前回の昭和 22 年から 24 年の修復に関して資料がなかったが、33 年前に安部榮四郎の和紙を整理した際の「菅田庵の襖紙」と記した紙の切れ端があった記憶をたどり、著書を調べると昭和 27 年刊行の「出雲の紙」に次のような一文があった。

昭和 24 年には当時国宝に指定されていた茶室菅田庵の修築が終わり、ふすまの紙の製作を依頼された。これは建築当時そのままの面影を伝えるという趣旨から、各種顔料を交えてもとの薄浅黄色を復元した。

このような経緯を鑑み、後日理事長安部信一郎と学芸員で現地を見学した。その時、襖紙を少々いただき、高知県立紙産業技術センターに繊維の分析を依頼した。繊維の分析結果は、楮の繊維にわらの繊維が少し混ざったものであった。しかし顔料など添加材などの特定はできなかった。この建造物が 1790 年ごろの建築で、その後の初めての修復が昭和 22 年である。襖の紙にわらが混じっていたことは、当時楮の原料の不足も予想される。よって、今回の襖紙については楮のみで漉くことが適していると思われる。染色については、70 年以上の経過があり、相当変色していたため、元の色の特定はできなかった。しかし、安部榮四郎の文章にある薄浅黄色は、出雲民芸紙には無い色なので、今後顔料や染料の混合により当時の色の再現に努力していくことが必要と思われる。

原料について、原料の処理及び製造工程、顔料の配合など記録し、今後の修復時に再現できるよう情報の記録は大切な課題である。

このように文化財の修復においても和紙は欠かせない材料である。和紙のはくぶつかん・安部榮四郎記念館としても、様々な重要文化財等の調査に加わり、情報の記録をしていくことが、和紙の重要性を周知する大切な役目である。

4. その他

和紙で結ぶ地域交流と国際交流事業実行委員会の事業

(この事業は平成 29 年度文化芸術振興費補助金・地域の核となる美術館博物館支援事業による)

①多言語による和紙国際化事業

ア・多言語 DVD「紙漉き体験説明映像」の製作と活用

海外からの観光客にも紙漉き体験を通して、日本の伝統文化に触れてもらうよう、日本語・フランス語・英語の紙漉き体験説明映像を製作した。手漉き和紙伝習所において活用。

イ・展示説明の多言語標記と説明冊子の製作と配布活用

展示におけるキャプションと展示の説明をフランス語と英語で表記した。説明においては文字数が多く読みにくいので冊子を製作した。

ウ・絵本テキスト「出雲民芸紙が出来るまで」製作と配布

子供から大人まで手漉き和紙の製作工程や出雲民芸紙の歴史が分かるよう絵本風にデザインし「出雲民芸紙が出来るまで」を製作し、来館者に配布した。

②和紙調査研究と情報発信事業

ア・「和紙を未来に繋ぐ―手漉き和紙展Ⅰ・Ⅱ」の開催

・・・会場 松江テルサ 1階フロアー

期間 平成29年10月8日から12日まで5日間

来館者数 1500人

詳細はパンフレット・報告書参照

イ・「和紙を未来に繋ぐ―和紙シンポジウム」の開催

・・・会場 松江テルサ 7階 ドームシアター

期間 平成29年10月11日

13時30分から17時

参加者 200名（定員150名）

詳細はパンフレット・報告書参照

ウ・報告書「手漉き和紙を未来に繋ぐための現状調査と将来への課題

―生産者アンケートの結果分析と和紙シンポジウム報告―」の製作と配布

この報告者は、和紙生産者に配布した。

エ・和紙生産者名簿の製作（生産者データの構築）

平成27年度から28年度まで全国の手漉き和紙生産者を把握し、現状調査のためアンケートを実施した。376件に絞り込み、アンケートを実施した。回答者は、廃業も含め120件、すべての生産者の回答は困難なので電話による聴き取り調査も行い、生産者を207件確認した。この生産者名簿は、今後手漉き和紙生産者の経年変化を観測する基本データとなる。

オ・雁皮紙で和紙本「ろくろ首」英訳付を製作、松江市内小中学校・図書館・大学等に配布。

雁皮紙は、出雲民芸紙の中でも特徴ある和紙である。原料となる雁皮は、島根県産（自生のもの）を使用し、永久保存できる耐久性の良い和紙である。この雁皮紙で小泉八雲の怪談「ろくろ首」を製作した。英語訳付きで、広い年代に手に取ってもらえるよう、図書館にも配布した。手漉き和紙の耐久性と機能を周知し普及活動に繋げた。

【収益事業】

平成29年度は、昨年度にくらべ売店収入が増加した。その要因としては、展示室とあわせてロビー売店もリニューアルを行い商品が買い求めやすくなったこと、クレジットカードの使用頻度が増えた（特に外国人観光客）ことで購入単価が増えたことが考えられる。

交流事業実行委員会の平成29年度事業で雁皮紙を使った英訳本（小泉八雲 ろくろ首）が作られた。その雁皮紙の納入を当記念館がおこなったことも大きく貢献した。

引き続き団体客とあわせて個人客の誘致にも積極的に取り組み、来館者を増やすこととあわせてミュージアムショップの取扱商品の充実にも努めていきたい。

（株）しゅんこうより記念碑設置に伴う土地賃貸料が今年度もはいった。

【法人事業】

1、監査の実施

平成29年5月20日 長島、長沢監事により記念館において平成28年度の監査が実施された。

2、役員会の開催

・平成29年5月31日 第12回理事会を開催した。

議題は、平成28年度事業報告、平成28年度決算及び財務諸表、任期満了に伴う記念館役員選任候

補者推薦名簿、定時評議員会の開催の件等であった。理事6名中5名出席、監事2名出席され原案通りすべて承認された。

- ・平成29年6月18日 第9回評議員会を開催した。

議題は、平成28年度事業報告、平成28年度決算及び財務諸表、任期満了に伴う理事選任、任期満了に伴う監事選任、任期満了に伴う評議員選任等であった。評議員5名中5名出席、監事2名出席で行われ、原案通りすべて承認された。

- ・平成29年6月18日 第13回理事会を開催した。

議題は、代表理事（理事長）の選定、記念館館長の選任等であった。理事6名中5名出席、監事2名出席され、原案通りすべて承認された。

- ・平成29年7月27日 第14回理事会を書面にて開催した。

議題は、秋原司理事の死去に伴う補欠理事候補者推薦名簿と秋原理事死去にともなう補欠理事の選任のための評議員会を書面表決にて行うことを決議した。

- ・平成29年8月3日 第10回評議員会を書面にて開催した。

議題は、秋原司理事の死去に伴う補欠理事の選任で藤田彰浩氏を書面表決にて選任した。

- ・平成30年3月2日 第15回理事会を開催した。

議題は、平成29年度補正予算、平成30年度事業計画、平成30年度収支予算、臨時評議委員会開催等であった。理事6名中6名出席、監事2名中1名出席で行われ、原案通りすべて承認された。

- ・平成30年3月17日 第11回評議員会を書面表決の形で開催した。

議題は、平成29年度補正予算の報告、平成30年度事業計画及び平成30年度収支予算の報告等であった。原案通り承認された。

3、その他

- ・消防設備点検のうちに煙探知機が故障しているとの指摘を受け修繕を行った。

- ・トイレの改修を行った。男女両トイレとも壁に亀裂が入っていたのでその修繕を行った。

男性用トイレは二つあった個室を一つにまとめ様式便器とし面積を広くするとともに手すりを設置した。あわせてトイレ用品の収納のための部屋をひろくした。女性トイレは、三つあった個室を二つに改修しすべて洋式便器とし各部屋を広くするとともに手すりを設置した。あわせて改修中に女性トイレの天井が痛んでいることが判明し天井の修理をおこなった。

- ・記念館の庭の竹垣が破損したのでその修理を行った。

資料

入館者数											
月日	有 料									無料	合計
	個人入館者数				優待者入館者数				小計		
	大高				大高 中小						
	大人	生	中小生	計	大人	生	生	計			
4月計	18	0	5	23	125	0	0	125	148	47	195
5月計	53	0	2	55	147	1	2	150	205	33	238
6月計	14	0	2	16	54	25	13	92	108	60	168
7月計	9	0	1	10	7	0	23	30	40	52	92
8月計	35	16	20	71	63	4	85	152	223	44	267
9月計	34	0	10	44	36	0	109	145	189	77	266
10月計	52	0	17	69	54	0	0	54	123	134	257
11月計	28	0	0	28	49	0	56	105	133	322	455
12月計	9	0	1	10	52	0	19	71	81	83	164
1月計	6	0	0	6	0	0	0	0	6	25	31
2月計	25	1	3	29	0	23	0	23	52	87	139
3月計	16	0	2	18	16	0	2	18	36	53	89
合計	299	17	63	379	603	53	309	965	1344	1017	2361
28年度	325	18	16	359	532	70	179	781	1140	902	2042
前年比	92	94	393	106	113	76	173	124	118	113	116

月日	体験教室参加者数					
	有 料				無料	合計
	大人	大高生	中小生	幼児		
4月計	103	0	5	0	11	119
5月計	163	0	2	0	4	169
6月計	5	25	15	1	23	69
7月計	15	0	13	22	7	57
8月計	41	18	105	4	6	174
9月計	43	12	113	0	16	184
10月計	32	0	17	45	21	115
11月計	19	0	159	60	10	248
12月計	32	0	79	0	0	111
1月計	1	0	0	0	0	1
2月計	17	23	11	0	66	117
3月計	12	0	6	0	0	18
合計	483	78	525	132	164	1382
28年度	499	34	437	118	51	1139
前年比	97	214	120	112	322	121

決算報告書

第 35 期

自 平成 29 年 4 月 1 日

至 平成 30 年 3 月 31 日

公益財団法人 安部榮四郎記念館

松江市八雲町東岩坂1754

貸借対照表

平成 30 年 3 月 31 日 現在

(単位：円)

科 目	当 年 度	前 年 度	増 減
I 資 産 の 部			
1 流 動 資 産			
現 金	68,236	154,699	△86,463
預 金	10,861,186	12,875,323	△2,014,137
前 払 金	51,200	64,000	△12,800
仮 払 金	0	135	△135
流 動 資 産 合 計	10,980,622	13,094,157	△2,113,535
2 固 定 資 産			
(1) 基 本 財 産			
土 地	3,823,307	3,823,307	0
利 付 国 債	20,000,000	20,000,000	0
所 蔵 品	157,048,500	157,048,500	0
定 期 預 金	10,000,000	10,000,000	0
基 本 財 産 合 計	190,871,807	190,871,807	0
(2) そ の 他 固 定 資 産			
建 物	98,479,806	98,134,325	345,481
構 築 物	6,857,176	6,857,176	0
什 器 備 品	6,081,940	6,081,940	0
建 物 付 属 設 備	9,809,999	9,809,999	0
手 漉 和 紙 伝 習 設 備	890,000	890,000	0
減 価 償 却 累 計 額	△96,835,692	△95,613,984	△1,221,708
電 話 加 入 権	81,140	81,140	0
そ の 他 固 定 資 産 合 計	25,364,369	26,240,596	△876,227
固 定 資 産 合 計	216,236,176	217,112,403	△876,227
資 産 合 計	227,216,798	230,206,560	△2,989,762
II 負 債 の 部			
1 流 動 負 債			
前 受 金	12,000,000	13,000,000	△1,000,000
預 り 金	48,000	36,558	11,442
売 店 預 り 金	173,899	213,613	△39,714
流 動 負 債 合 計	12,221,899	13,250,171	△1,028,272
負 債 合 計	12,221,899	13,250,171	△1,028,272
III 正 味 財 産 の 部			
1 一 般 正 味 財 産	214,994,899	216,956,389	△1,961,490
(内 基 本 財 産 へ の 充 当 額)	(190,871,807)	(190,871,807)	(0)
正 味 財 産 合 計	214,994,899	216,956,389	△1,961,490
負 債 及 び 正 味 財 産 合 計	227,216,798	230,206,560	△2,989,762

正味財産増減計算書

平成 29 年 4 月 1 日から 平成 30 年 3 月 31 日まで

(単位：円)

科 目	当 年 度	前 年 度	増 減
I 一般正味財産増減の部			
1 経常増減の部			
(1) 経常収益			
① 基本財産運用益	(1,202,500)	(1,202,500)	(0)
基本財産受取利息	202,500	202,500	0
基本財産受取賃貸料	1,000,000	1,000,000	0
② 事業収益	(3,504,550)	(3,277,580)	(226,970)
入館料収入	457,600	458,250	△650
伝習所運営収入	792,984	735,992	56,992
売店収入	2,253,966	2,083,338	170,628
③ 受取補助金等	(419,000)	(437,000)	(△18,000)
受取地方公共団体補助金	419,000	437,000	△18,000
④ 受取寄付金	(1,717,758)	(1,778,861)	(△61,103)
受取寄付金	1,717,758	1,778,861	△61,103
⑤ 雑収益	(15,268)	(21,508)	(△6,240)
受取利息	2,778	6,556	△3,778
雑収入	12,490	14,952	△2,462
経常収益計	6,859,076	6,717,449	141,627
(2) 経常費用			
① 事業費			
事業経費	(7,321,834)	(6,333,254)	(988,580)
給料手当	1,536,000	1,536,000	0
臨時雇賃金	363,840	513,740	△149,900
福利厚生費	231,660	258,419	△26,759
旅費交通費	14,200	17,600	△3,400
通信運搬費	173,651	188,843	△15,192
減価償却費	1,210,083	1,254,884	△44,801
消耗品費	96,734	102,173	△5,439
修繕費	1,358,787	223,020	1,135,767
印刷製本費	388,800	393,120	△4,320
光熱水料費	479,207	460,722	18,485
賃借料	256,904	256,904	0
保険料	96,640	98,880	△2,240
諸謝金	75,000	80,000	△5,000
雑費	471,811	422,525	49,286
広告宣伝費	45,900	40,100	5,800
○ 調査研究費	21,720	0	21,720
研修教材費	500,897	486,324	14,573
事業費計	7,321,834	6,333,254	988,580

(単位：円)

科 目	当 年 度	前 年 度	増 減
② 管 理 費			
会 議 費	18,222	19,000	△778
通 信 運 搬 費	40,787	41,005	△218
減 価 償 却 費	11,625	11,979	△354
消 耗 品 費	8,305	8,967	△662
修 繕 費	147,413	22,140	125,273
光 熱 水 料 費	4,880	4,691	189
賃 借 料	19,656	19,656	0
保 険 料	952	962	△10
諸 謝 金	286,200	388,800	△102,600
租 税 公 課	3,020	2,520	500
負 担 金	320,945	99,426	221,519
支 払 利 息	12,800	13,474	△674
雑 費	253,827	97,677	156,150
寄 付 金	10,000	10,000	0
管 理 費 計	1,138,632	740,297	398,335
経 常 費 用 計	8,460,466	7,073,551	1,386,915
評価損益等調整前当期経常増減額	△1,601,390	△356,102	△1,245,288
評 価 損 益 等 計	0	0	0
当 期 経 常 増 減 額	△1,601,390	△356,102	△1,245,288
2 経 常 外 増 減 の 部			
(1) 経 常 外 収 益			
経 常 外 収 益 計	0	0	0
(2) 経 常 外 費 用			
経 常 外 費 用 計	0	0	0
当 期 経 常 外 増 減 額	0	0	0
税引前当期一般正味財産増減額	△1,601,390	△356,102	△1,245,288
法人税、住民税及び事業税	360,100	229,400	130,700
当 期 一 般 正 味 財 産 増 減 額	△1,961,490	△585,502	△1,375,988
一 般 正 味 財 産 期 首 残 高	216,956,389	217,541,891	△585,502
一 般 正 味 財 産 期 末 残 高	214,994,899	216,956,389	△1,961,490
II 指 定 正 味 財 産 増 減 の 部			
当 期 指 定 正 味 財 産 増 減 額	0	0	0
指 定 正 味 財 産 期 首 残 高	0	0	0
指 定 正 味 財 産 期 末 残 高	0	0	0
III 正 味 財 産 期 末 残 高	214,994,899	216,956,389	△1,961,490

収 支 計 算 書

平成 29 年 4 月 1 日から 平成 30 年 3 月 31 日まで

(単位：円)

科 目	予 算 額	決 算 額	差 異	備 考
I 一般正味財産増減の部				
1 経常増減の部				
(1) 経常収益				
① 基本財産運用益	(1,202,500)	(1,202,500)	(0)	
基本財産受取利息	202,500	202,500	0	
基本財産受取賃貸料	1,000,000	1,000,000	0	
② 事業収益	(3,430,000)	(3,504,550)	(Δ74,550)	
入館料収入	450,000	457,600	Δ7,600	
伝習所運営収入	780,000	792,984	Δ12,984	
売店収入	2,200,000	2,253,966	Δ53,966	
③ 受取補助金等	(419,000)	(419,000)	(0)	
受取地方公共団体補助金	419,000	419,000	0	
④ 受取寄付金	(1,600,000)	(1,717,758)	(Δ117,758)	
受取寄付金	1,600,000	1,717,758	Δ117,758	
⑤ 雑収益	(23,000)	(15,268)	(7,732)	
受取利息	3,000	2,778	222	
雑収入	20,000	12,490	7,510	
経常収益計	6,674,500	6,859,076	Δ184,576	
(2) 経常費用				
① 事業費				
事業経費	(7,992,282)	(7,321,834)	(670,448)	
給料手当	1,536,000	1,536,000	0	
臨時雇賃金	400,000	363,840	36,160	
福利厚生費	270,000	231,660	38,340	
旅費交通費	20,000	14,200	5,800	
通信運搬費	190,000	173,651	16,349	
減価償却費	1,144,282	1,210,083	Δ65,801	
消耗品費	110,000	96,734	13,266	
修繕費	1,650,000	1,358,787	291,213	
印刷製本費	400,000	388,800	11,200	
光熱水料費	510,000	479,207	30,793	
賃借料	300,000	256,904	43,096	
保険料	120,000	96,640	23,360	
諸謝金	170,000	75,000	95,000	
雑費	450,000	471,811	Δ21,811	
広告宣伝費	50,000	45,900	4,100	
調査研究費	22,000	21,720	280	
研修教材費	650,000	500,897	149,103	
事業費計	7,992,282	7,321,834	670,448	

(単位：円)

科 目	予 算 額	決 算 額	差 異	備 考
② 管 理 費				
会 議 費	30,000	18,222	11,778	
通 信 運 搬 費	40,000	40,787	△787	
減 価 償 却 費	58,281	11,625	46,656	
消 耗 品 費	10,000	8,305	1,695	
修 繕 費	200,000	147,413	52,587	
光 熱 水 料 費	6,000	4,880	1,120	
賃 借 料	33,000	19,656	13,344	
保 險 料	2,000	952	1,048	
諸 謝 金	350,000	286,200	63,800	
租 税 公 課	3,100	3,020	80	
負 担 金	250,000	320,945	△70,945	
支 払 寄 付 金	10,000	0	10,000	
支 払 利 息	0	12,800	△12,800	
雑 費	250,000	253,827	△3,827	
寄 付 金	0	10,000	△10,000	
管 理 費 計	1,242,381	1,138,632	103,749	
経 常 費 用 計	9,234,663	8,460,466	774,197	
評価損益等調整前当期経常増減額	△2,560,163	△1,601,390	△958,773	
評 価 損 益 等 計	0	0	0	
当 期 経 常 増 減 額	△2,560,163	△1,601,390	△958,773	
2 経 常 外 増 減 の 部				
(1) 経 常 外 収 益				
経 常 外 収 益 計	0	0	0	
(2) 経 常 外 費 用				
経 常 外 費 用 計	0	0	0	
当 期 経 常 外 増 減 額	0	0	0	
税引前当期一般正味財産増減額	△2,560,163	△1,601,390	△958,773	
法人税、住民税及び事業税	360,100	360,100	0	
当期一般正味財産増減額	△2,920,263	△1,961,490	△958,773	
一般正味財産期首残高	216,956,389	216,956,389	0	
一般正味財産期末残高	214,036,126	214,994,899	△958,773	
Ⅱ 指 定 正 味 財 産 増 減 の 部				
当期指定正味財産増減額	0	0	0	
指定正味財産期首残高	0	0	0	
指定正味財産期末残高	0	0	0	
Ⅲ 正 味 財 産 期 末 残 高	214,036,126	214,994,899	△958,773	

財務諸表に対する注記

1. 重要な会計方針

(1) 固定資産の減価償却の方法

有形固定資産・・・定率法

(2) 消費税等の会計処理

消費税等の会計処理は税込方式により処理しております。

2. 基本財産及び特定資産の増減額及びその残高

基本財産及び特定資産の増減額及びその残高は、次のとおりです。

(単位：円)

科 目	前期末残高	当期増加額	当期減少額	当期末残高
基本財産				
土 地	3,823,307	0	0	3,823,307
利 付 国 債	20,000,000	0	0	20,000,000
所 蔵 品	157,048,500	0	0	157,048,500
定 期 預 金	10,000,000	0	0	10,000,000
合 計	190,871,807	0	0	190,871,807

3. 基本財産及び特定資産の財源等の内訳

基本財産及び特定資産の財源等の内訳は、次のとおりです。

(単位：円)

科 目	当期末残高	(うち指定正味財 産からの充当額)	(うち一般正味財 産からの充当額)	(うち負債に 対応する額)
基本財産				
土 地	3,823,307	0	(3,823,307)	0
利 付 国 債	20,000,000	0	(20,000,000)	0
所 蔵 品	157,048,500	0	(157,048,500)	0
定 期 預 金	10,000,000	0	(10,000,000)	0
合 計	190,871,807	(0)	(190,871,807)	(0)

4. 固定資産の取得価額、減価償却累計額及び当期末残高

固定資産の取得額、減価償却累計額及び当期末残高は、次のとおりです。

(単位：円)

科 目	取得価額	減価償却累計額	当期末残高
建 物	98,479,806	73,933,469	24,546,337
構 築 物	6,857,176	6,620,298	236,878
什 器 備 品	6,081,940	5,581,930	500,010
建 物 付 属 設 備	9,809,999	9,809,996	3
手 漉 和 紙 伝 習 設 備	890,000	889,999	1
電 話 加 入 権	81,140	0	81,140
合 計	122,200,061	96,835,692	25,364,369

5. 保証債務等の偶発債務

該当事項ありません。

6. 指定正味財産から一般正味財産への振替額の内訳

該当事項ありません。

7. 重要な後発事象

該当事項ありません。

8. その他

前受金を原資とする定期預金の預金利子収入は、収益事業として計上してある。

財 産 目 録

平成 30 年 3 月 31 日 現在

(単位：円)

科 目	場 所 等	物 量	使 用 目 的 等	金 額
I 資 産 の 部				
1 流 動 資 産				
現 金 ・ 預 金	手元保管		運転資金として	68,236
現 金	島根県農協／八雲支店		運転資金として	1,164,548
普 通 預 金	山陰合同銀行／古志原支店		運転資金として	637,692
	八雲郵便局		運転資金として	41,025
	振替口座①		運転資金として	4,489
	振替口座②		運転資金として	6,469
	山陰合同銀行／八雲代理店			950
定 期 預 金	山陰合同銀行／八雲			6,006,013
	山陰合同銀行／八雲			1,000,000
	島根県農協／八雲			2,000,000
前 払 金	国債額面価額超過額未経過分			51,200
仮 払 金	交流実行委員会郵送料			-
流 動 資 産 合 計				10,980,622
2 固 定 資 産				
(1) 基 本 財 産				
土 地	設立者寄付土地（記念館敷地）	1191.07 m ²	公益目的保有で、記念館敷地使用	3,823,307
利 付 国 債				20,000,000
所 蔵 品	設立者寄付所蔵品	817 点	公益目的保有で、展示事業に使用	157,048,500
定 期 預 金	島根県農協／八雲支店			10,000,000
基 本 財 産 合 計				190,871,807
(2) そ の 他 固 定 資 産				
建 物	記念館	434.08 m ²	公益目的保有で、1階に売店あり	88,599,806
	伝習所	77.53 m ²	公益目的保有で、体験教室使用	5,680,000
	伝習所	17.57 m ²	公益目的保有で、体験教室使用	4,200,000
構 築 物	庭園、塀、舗装路面、防壁			6,857,176
什 器 備 品	応接セット、書棚、陳列台ほか			6,081,940
建 物 付 属 設 備	電気、災害報知、給排水設備			9,809,999
手 漉 和 紙 伝 習 設 備	手漉き和紙伝習設備		公益目的保有で、体験教室使用	890,000
減 価 償 却 累 計 額	減価償却累計額			△96,835,692
電 話 加 入 権	電話加入権			81,140
そ の 他 固 定 資 産 合 計				25,364,369
固 定 資 産 合 計				216,236,176
資 産 合 計				227,216,798
II 負 債 の 部				
1 流 動 負 債				
前 受 金	㈱しゅんこう 前受貸貸料			12,000,000
預 り 金	源泉所得税		30年1～3月分	5,432
	雇用保険料			4,736
	社会保険料		30年2～3月分	37,832
売 店 預 り 金	受託販売			173,899
流 動 負 債 合 計				12,221,899
負 債 合 計				12,221,899
正 味 財 産				214,994,899

正味財産増減計算書内訳表（平成29年4月1日から平成30年3月31日まで）

（単位：円）

勘定科目	公益目的事業会計	収益事業等会計		法人会計	合計
		売店等事業	賃貸事業		
			小計		
I 一般正味財産増減の部					
1、経常増減の部					
(1)経常収益					
①基本財産運用益	0	0	1,000,000	202,500	1,202,500
基本財産受取利息	0	0	0	202,500	202,500
基本財産受取賃貸料	0	0	1,000,000	0	1,000,000
②事業収益	1,250,584	2,253,966	0	0	3,504,550
入館料収入	457,600	0	0	0	457,600
伝習所運営収入	792,984	0	0	0	792,984
売店収入	0	2,253,966	0	0	2,253,966
③受取補助金等	419,000	0	0	0	419,000
受取地方公共団体補助金	419,000	0	0	0	419,000
④受取寄付金	1,097,758	600,000	0	20,000	1,717,758
受取寄付金	1,097,758	600,000	0	20,000	1,717,758
⑤雑収益	0	6,700	0	8,568	15,268
受取利息	0	0	0	2,778	2,778
雑収入	0	6,700	0	5,790	12,490
経常収益計	2,767,342	2,860,666	1,000,000	231,068	6,859,076
(2)経常費用					
①事業費					
事業経費	5,456,751	1,865,083	0	0	7,321,834
給与手当	768,000	768,000	0	0	1,536,000
臨時雇用賃金	181,920	181,920	0	0	363,840
福利厚生費	115,833	115,827	0	0	231,660
旅費交通費	7,400	6,800	0	0	14,200
通信運搬費	92,408	81,243	0	0	173,651

減価償却費	1,163,585	46,498	0	46,498	0	1,210,083
消耗品費	89,825	6,909	0	6,909	0	96,734
修繕費	1,215,598	143,189	0	143,189	0	1,358,787
印刷製本費	19,440	369,360	0	369,360	0	388,800
光熱水料費	459,863	19,344	0	19,344	0	479,207
賃借料	237,248	19,656	0	19,656	0	256,904
保険料	92,835	3,805	0	3,805	0	96,640
諸謝金	75,000	0	0	0	0	75,000
雑費	371,439	100,372	0	100,372	0	471,811
広告宣伝費	43,740	2,160	0	2,160	0	45,900
調査研究費	21,720	0	0	0	0	21,720
研修教材費	500,897	0	0	0	0	500,897
事業経費	5,456,751	1,865,083	0	1,865,083	0	7,321,834
②管理費						
会議費	0	0	0	0	18,222	18,222
通信運搬費	0	0	0	0	40,787	40,787
減価償却費	0	0	0	0	11,625	11,625
消耗品費	0	0	0	0	8,305	8,305
修繕費	0	0	0	0	147,413	147,413
光熱水料費	0	0	0	0	4,880	4,880
賃借料	0	0	0	0	19,656	19,656
保険料	0	0	0	0	952	952
諸謝金	0	0	0	0	286,200	286,200
租税公課	0	0	0	0	3,020	3,020
負担金	0	0	0	0	320,945	320,945
支払利息	0	0	0	0	12,800	12,800
雑費	0	0	0	0	253,827	253,827
寄付金	0	0	0	0	10,000	10,000
管理費計	0	0	0	0	1,138,632	1,138,632
経常費用計	5,456,751	1,865,083	0	1,865,083	1,138,632	8,460,466

監査報告書

公益財団法人 安部榮四郎記念館

理事長 安部信一郎 殿

平成30年 5月15日

公益財団法人 安部榮四郎記念館

監事 長 島 讓 

公益財団法人 安部榮四郎記念館

監事 長 沢 広 朋 

私たち監事は、平成29年4月1日から平成30年3月31日までの事業年度の理事の職務の執行を監査いたしました。その方法及び結果について、次のとおり報告いたします。

1、監査の方法及びその内容

各監事は、理事および使用人等と意思疎通を図り、情報の収集及び監査の環境の整備に努めるとともに、理事会その他重要な会議に出席し、理事及び使用人等からその職務の執行状況について報告を受け、必要に応じて説明を求め、重要な決済書類等を閲覧し、業務及び財産の状況を調査いたしました。以上の方法に基づき、当該事業年度に係る事業報告について検討いたしました。

さらに、会計帳簿又はこれに関する資料の調査を行い、当該事業年度に係る計算書類(貸借対照表及び正味財産増減計算書)及びその附属明細書並びに財産目録について検討いたしました。

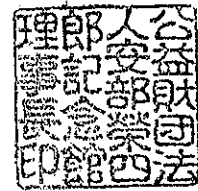
2、監査意見

(1) 事業報告の監査結果

- ① 事業報告は、法令及び定款に従い、法人の状況を正しく示しているものと認めます。
- ② 理事の職務の執行に関する不正の行為又は法令若しくは定款に違反する重大な事実は認められません。

(2) 計算書類及びその附属明細書並びに財産目録の監査結果

計算書類及びその附属明細書並びに財産目録は、法人の財産及び損益の状況をすべての重要な点において適正に示しているものと認めます。



公益財団法人 安部榮四郎記念館
平成 30 年度第 1 回理事会

- 1、開催日時 平成 30 年 5 月 22 日 (火) 12 時～13 時 30 分
- 2、開催場所 五幸 2 階和室
- 3、理事総数及び定数
総数 6 名、 定足数 4 名
- 4、出席理事数 6 名
(出席者) 安部信一郎、藤田彰裕、安部紀正、米田裕幸、澤田暉雄
(欠席者) 青砥誠一、
(監事出席) 長澤廣朋

5、議案

決議事項

第 1 号議案 「平成 29 年度事業報告の承認」の件

第 2 号議案 「平成 29 年度決算書類（貸借対照表及び正味財産増減計算書）及び附属明細書並びに財産目録等の承認」の件

第 3 号議案 「定時評議員会の日時及び場所並びに目的である事項等」の件

6、会議の概要

(1) 定足数の確認等

冒頭で安部信一郎理事長より、理事総数 6 名中、現在 5 名が出席であること、したがって開催要件の定足数たる過半数 4 名以上を充足していることを確認し、続いて同理事長から本会議の議事進行について説明があった。

(2) 議案の審議状況及び議決結果等

定款の規定に基づき、安部信一郎理事長が議長として本会議の成立を宣し、議案の審議に移った。

○ 決議事項

第 1 号議案 「平成 29 年度報告の承認」の件

安部信一郎理事長より資料に基づき説明があった。

審議の結果、原案通り出席理事全員一致で可決承認した。

第 2 号議案「平成 29 年度決算書類（貸借対照表及び正味財産増減計算書）及び附属明細書並びに財産目録承認の承認」の件

安部信一郎理事長が資料に基づき第 2 号議案について詳細説明をおこなった。

続いて議長の求めに応じて、長澤監事より監査方法の概要及び監査意見が報告された。

審議の結果、原案通り出席理事全員一致で可決承認した。

第 3 号議案 「定時評議員会の日時及び場所並びに目的である事項等」の件

安部信一郎理事長より評議員会を下記の要領にて招集する旨の説明があった。

審議結果、原案通り出席理事全員一致で可決承認した。

日時 平成 30 年 6 月 10 日午後 12 時開始

場所 五幸

目的である事項

- ・平成 29 年度事業報告承認の件
- ・平成 29 年度決算書類（貸借対照表及び正味財産増減計算書）及び附属明細書並びに財産目録等の承認の件
- ・その他

審議の結果、原案通り出席理事全員一致で可決承認した。

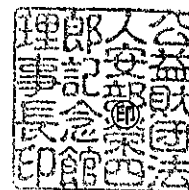
以上をもって議案の審議等を終了したので、13 時 30 分、議長は閉会を宣し解散した。

以上、この議事録が正確であることを証するため、出席した代表理事及び監事は記名押印する。

平成 30 年 5 月 12 日

代表理事

安部信一郎



監事

長澤 廣朋





公益財団法人安部榮四郎記念館
平成 30 年度第 1 回定時評議員会議事録

- 1 開催日時 平成 30 年 6 月 10 日（日）12 時～13 時
- 2 開催場所 五幸
- 3 評議員現在数及び定足数
現在数 6 名 定足数 4 名
- 4 出席評議員数 6 名
(本人出席) 石原英紀 杉原登司夫 藤田 勝 野坂 裕 矢野初二
永原和男
(監事出席) 長澤廣朋
(その他出席) 安部信一郎理事長 安部紀正館長
- 5 議 案 第 1 号議案「平成 29 年度事業報告」の件
第 2 号議案「平成 29 年度決算及び財務諸表」の件

6 議事の経過及びその結果

(1) 定足数の確認等

安部理事長が開会のあいさつをおこなった。

続いて安部理事長が定足数の充足を確認し、本会議の議事進行及び議案資料について説明をおこなった。

(2) 議案の審議状況及び議決結果等

安部理事長が定款第 21 条に基づき出席評議員の中から議長を選出するように求めた。
審議の結果藤田 勝評議員を議長とすることを全員一致で決定した。

藤田 勝評議員が議長席につき、あらためて本会議の成立を宣し議案の審議に移った。

議事録署名人は、定款第 25 条にもとづき、議長である藤田 勝評議員とした。

第 1 号議案「平成 29 年度事業報告」の件

第 2 号議案「平成 29 年度決算及び財務諸表」の件

議長が、第 1 号議案と第 2 号議案は関係するのであわせて審議したいとのべ、第 1 号議案及び第 2 号議案について安部理事長に説明するように求めた。

求めに応じ資料に基づき安部理事長が説明をおこなった。

続いて議長が、長澤監事に対して監査報告をおこなうよう求めた。

求めに応じ長澤監事が監査報告をおこなった。

議長が評議員に意見を求めた。

矢野評議員より、記念館のイベント等のアピールをマスコミも含めてもっと行うべきとの意見が出された。あわせて松江市内の観光客が多く訪れる場所の近くの松江市が所有している施設で使用されていないところがあるので、紙漉き体験教室等その場所でおこなえるよう行政に働きかけてはどうだろうか、あわせてもっと記念館以外の場所でもイベントを開催するようにしたらどうかとの意見が出された。理事長が今後検討していきたいとこたえた。

永原評議員より、指絵を描く作家の方と知り合いになった。作品を作るときに出雲民芸紙を使用してもらえよう働きかけたらどうだろうかとの意見が出された。理事長が出雲民芸紙を使っただけの方を増やしていきたいのでぜひ働きかけをしてみたいと答え



た。あわせて出席評議員の方でこういったお知り合いの方がいらっしゃったら紹介願いたいと述べた。

審議の結果、第1号議案及び第2号議案いずれも原案通り出席評議員全員一致承認した。
以上をもって議案の審議を終了したので、13時議長は閉会を宣し評議員会は終了した。

以上この議事録が正確であることを証するために、議長は記名押印する。

平成30年6月10日

議長

藤田 勝

